

出前授業を開催しました

～伊是名小学校、伊江・西小学校、多良間小学校～

土地改良総合事務所では、10月～12月の間、伊是名村、伊江村(国営完了地区)及び多良間村(調査地区)の小学校において、出前授業を実施しました。

沖縄県の島嶼においては、農業が基幹的産業として展開されている島が多く、日本の農業を取り巻く状況や食のはなしを学ぶことで、離島の将来を担う児童が農業に対する関心を高め、農業農村整備事業の役割や重要性について理解を深めてもらい、島の発展に繋げてくれることを期待しています。

伊是名小学校 令和5年10月20日(金) 4年生19名

▶室内学習～食べ物のはなし、地下ダムのはなし、伊是名村土地改良区とは～

「食べ物のはなし」では、伊是名島のスーパーで販売されている食品の食品表示を提示して、毎日食べている食材でも海外に多く頼っていることや、日本の食料自給率が低い現状を確認し、食料自給率を高めるためには、国内で生産された作物を多く生産・消費することが大事だと説明しました。

「地下ダムのはなし」では、伊是名島に地下ダムを造った理由や地下ダムの仕組みについて雨水の動きをクイズ形式にして説明し、地下ダムを含むかんがい施設が整備されたことにより、干ばつの時期でも作物へのかん水が可能となったことを伝えました。

「伊是名土地改良区とは」では、伊是名土地改良区が日々、地下ダムの水位状況やパイプライン、ファームポンド等の施設状態の監視、施設のメンテナンスなどを行っていることを説明し、土地改良区の存在があつて初めて伊是名島の農業が発展し、持続していくことを伝えました。

これらの説明に対し、生徒たちは一生懸命メモをとりながら聞いており、クイズでは積極的に手を挙げて答えていました。

▶現地学習～千原第一副貯水池、千原取水機場、千原貯水池～



千原取水機場見学

伊是名土地改良区職員の案内により、千原第1副貯水池、千原取水機場及び千原地下ダムを現地見学し、各施設について役割や農業用水の実際の動きについて説明がありました。生徒たちは山の上に大きなタンクがあることは知っていたものの、その役割については知らなかったようで、畑の下に地下ダムの水が広範囲で溜まっていることに驚いていた様子がみられました。また、千原取水機場では、実際に稼働したポンプを見た生徒たちから「本当に水が流れているね」、「この中を地下ダムの水が流れるんだね」と声を掛け合い、地下ダムに関心を持っている姿が見られました。

今回の出前授業を通して、生徒たちが食べ物や地下ダム、土地改良区の役割について学び、伊是名の農業について関心をもつきっかけになることを期待しています。

伊江小学校・西小学校 令和5年11月29日(水) 4年生42名(伊江小22名、西小20名)

▶室内学習～地下ダムのはなし、伊江土地改良区とは～

伊江島にある2つの小学校4年生を対象に中央管理所において、農業用水の開発として造成された地下ダムの仕組みや役割について説明しました。伊江島では、国営事業により地下ダムができたことにより、多様な作物が栽培できることや、散水労力の軽減、干ばつ被害の防止、高収益作物の生産拡大につながったことなど、伊江島の農業が水あり農業により変化したことを説明しました。



室内学習の様子

また、地下ダムを始め農業用施設を管理している伊江土地改良区の役割についてスポットをあて紹介しました。伊江土地改良区の職員が給水施設やファームポンドの管理を行っていること、そのような施設管理が伊江島農業の持続発展につながっていることを説明しました。

生徒たちは、スクリーンに映し出された資料を見ながら講師である土地改良総合事務所職員の説明を真剣に聞いていました。

▶現地学習～止水壁(レプリカ)の説明、2号ファームポンド、ほ場での散水体験～

現地学習では、土地改良区職員により説明が行われ、まず中央管理所の構内にある地下ダム止水壁(レプリカ)を用いて、止水壁が造られる仕組みの説明を受けました。



止水壁(レプリカ)見学

続いて、2号ファームポンドにのぼり、ファームポンドの役割を知り、まわりに広がるほ場を見渡しながら伊江島の農業の重要性を知ったことと思います。また、ファームポンドに近接するほ場において、スプリンクラーによる散水体験を行うと、生徒たちはとても楽しそうにしていました。



ファームポンド見学

参加した生徒たちからは、「地下ダムについて知ることができて良かった」、「家族にも今日学んだことを話したい」などの感想が挙げられました。

今回の出前授業を通して、生徒たちに地下ダムの存在や役割、伊江島の農業の在り方について関心を持ってもらい、将来、農業の担い手が増えることを期待しています。



散水体験



集合写真

多良間小学校 令和5年12月5日(火) 4年生11名

▶室内学習～食べ物の話、多良間島の水の話、赤土流出防止対策の話～

「食べ物の話」では、日本の食料自給率について説明しました。日本の食料自給率は低いため、国産で作られた食べ物だけでは、お腹いっぱい食べることが出来ない現状を伝えました。地元で作られた農作物を食べることが食料自給率を高める取り組みにつながることを話しました。

「多良間島の水の話」では、多良間島の降水や水利用、ため池や淡水レンズについて説明しました。多良間島は集水面積が小さく、ため池の貯水量も多くないため、水を大切に使ってほしいこと、地下水を汚さないようにごみを捨てないでほしいことを話しました。

「赤土流出防止対策のはなし」では、降雨により畑から赤土が流出することで、ため池の水質が悪くなってしまうため、発生源対策としてベチバーの植栽をしたり水路や道路を掃除したりすることが大切ということを話しました。

これらの3つの説明に対し、生徒たちは、真剣な表情で聞いており、クイズでは積極的に手を挙げて答えていました。

▶現地学習～地下水用井戸、赤地原ため池、グリーンベルト設置～

地下水の観測ができる井戸(集水井)では、井戸の構造について説明しました。生徒たちは、集水井の深さに驚き、うつ伏せになって淡水レンズの水をみようとかなり興味津々でした。赤地原ため池では、畠面に降った雨水がため池まで流れていく仕組みについて説明しました。その後、ため池の水が農家の畠まで届くのか、現在のため池の水の使い方について、かん水作業にとても労力がかかるなどを多良間村役場の方に話をして頂きました。

その後、国営事業で集水池とファームポンド等を整備することで、高収益作物が作れるようになったり、降雨に頼らない安定的な農業経営が可能になるということ話しました。実際にため池横に設置されている給水スタンドから水を流すと、児童たちは水が激しく流れる様子に驚いていました。また、室内学習で説明した赤土流出防止対策のベチバー植栽の昨年度植栽した場所の見学に行きました。昨年度と比較するとベチバーが大きくなっていることを実際に確認しました。今回の出前授業について生徒たちは、「赤土流出をとめるにはベチバーを植えることを学びました」や「水が汚いと飲み水やお風呂の水が汚くなるから、なるべく水を汚さないようにしようと思いました。」等の感想が聞かれました。

出前授業を通して、生徒たちが多良間島の水や土壤保全の大切さを知り、多良間島の農業について関心を持つきっかけになれば幸いです。



室内学習の様子



地下水用井戸見学



赤地原ため池見学